

中期計画 2018－2022

一般社団法人日本バイアスロン連盟

作成日：平成29年7月29日

1 全般総括

日本バイアスロン連盟は、2011年に分離独立し新たに「一般社団法人 日本バイアスロン連盟」として、選手強化事業を始め、普及育成、大会開催事業等の各種事業を積極的に行ってまいりました。

平昌オリンピックを来年に迎えた今、いままでの取り組みを総括すると共に、今後約10年間を見通して新たに「中期目標 2018-2026」を設定しました。その上で、2022年までの今後5年間で特に力を入れて推進していく活動を整理し、この「JBF 中期計画 2018-2022」として取りまとめました。

年度	主要行事	目標・計画	強化プラン
2011年/平成23年			
			オリンピック特別対策強化戦略プラン 2018
	ソチオリンピック		
現在		中期目標 2018-2026 中期計画 2022	オリンピック特別対策強化戦略プラン 2022
2018年/平成29年	平昌オリンピック		
			オリンピック特別対策強化戦略プラン 2026
2022年	北京オリンピック		
		中期目標 中期計画	オリンピック特別対策強化戦略プラン 2032
2026年			

2 強化

2011年から作成してきた、「オリンピック特別対策強化戦略プラン」を基に、選手強化事業を進めており、目標は以下の通り。←強化施策等の詳細は別紙参照。

達成目標

(1) 短期目標

- ア. 2018年ピョンチャン冬季五輪大会において個人8位入賞以上を目指す。若しくはリレー競技で8位以内に入賞する。
- イ. 2017年までのシーズン国別ランキング20位以内にして、2018年のオリンピック参加枠男・女子各4名を獲得する。

(2) 長期目標

- ア. 2022年冬季五輪大会において個人若しくはリレー競技でメダルを獲得する。
- イ. 2021年までのシーズン国別ランキングを15位以内にして、2022年のオリンピック参加枠を男・女子各4名を獲得する。

以下の項目別に、現状の課題、方向性、重点施策となる項目を記述します。

3 普及

1) 現状の課題

- ・2011-2016年度での登録選手数の減少
- ・子どもたちのクロスカントリー競技（冬季スポーツ）との接点の減少
- ・全国的なクラブチーム数の減少、特に北海道
- ・年間競技カレンダーの再整備（クロスカントリー競技とのスケジュール調整）
- ・登録制度のあり方の検証と改善（年間会員登録料と連盟加盟費等の整理と明確化）
- ・国内バイアスロン競技場の不足

2) 方向性

中期計画では、「普及施策の推進」と「施設整備の推進」を新たな達成目標と位置づけて推進します。

年齢、性別、障がい、人種などに関わりなく、だれもが、いつでも、どこでも、安全・安心にバイアスロンを楽しめる環境づくりやきっかけづくりに努めます。

特に、施設整備の推進にあたっては、日本代表の活動拠点となる「JBF ナショナルバイアスロンセンター（仮称）」の整備の検討を進めるほか、マーケティング事業でのサポートによる、助成事業を一つの柱に、バイアスロン連盟が長年培ってきたノウハウを効率的に発信しながら、関係団体・企業・組織への働きかけも強化し、全国のバイアスロン競技場整備・設置の検討を進めます。

3) 重点施策

- キッズからシニアまでのプレー環境の充実：達成することが望ましい目標
 - ・「JBF キッズプログラム（仮称）」の作成・推進・強化
 - ・シニア年代への積極的なアプローチ
- 学校・教育現場への支援：達成することが望ましい目標
 - ・学校体育への支援
 - ・部活動への支援
 - ・部活動の顧問の環境づくり支援
- クラブ活動支援とスポーツ文化の創造：達成することが望ましい目標
 - ・多面的なクラブ活動支援の実施（多世代クラブ化推進ほか）
 - ・「JBF スポーツマネジャーズカレッジ（SMC）」の実施

- 障がい者バイアスロン競技等へのサポート
- JBF メンバーシップ制度の改革：達成することが望ましい目標
 - ・既存の登録制度のあり方の検証と登録推進
 - ・地域/都道府県における各連盟・競技団体等のあり方の検討
 - ・非登録更新者・サポーター・ファンも含めた新たなメンバーシップ（会員）制度の検討
- 施設整備の推進：達成することが望ましい目標
 - ・助成事業を軸とした施設整備推進
 - ・バイアスロン競技施設整備に関するノウハウ等の共有
 - ・施設整備関連法人・団体への働きかけ
 - ・バイアスロンスタジアムの整備推進
 - ・JBF ナショナルバイアスロンセンター（仮称）の整備検討
- バイアスロンファミリー増加施策の実施：達成することが望ましい目標
 - ・日本代表特別強化プランの実施
 - ・競技運営を通じた大会への貢献とノウハウの蓄積
- 女子バイアスロン競技の普及・育成
- 他の民間スポーツ施設との連携によるミニバイアスロン競技施設の拡充と公認化等の検討

4 育成

1) 現状の課題

- ・都道府県レベルのトレーニング環境の質的向上
- ・選手育成の方向性の日本全体への共有
- ・19～22 歳代の競技者に対する競技会・大会環境の不足

2) 今後の方向性

中期計画では、「育成環境の充実」を新たな達成目標として位置づけました。選手育成を所管する強化委員会、普及・育成委員会では、日本バイアスロン競技の強化に関する現状の課題を分析し、新たに「オリンピック特別対策強化戦略プラン」を策定し、選手育成の現場にも徹底していくこととしました。

日本代表選手の輩出を目標として、委員会のあり方をはじめ、現在の育成制度を検証・改革すると共に、都道府県加盟団体との連携を強化し、バイアスロンを通じた豊かな人間形成を意識し、より充実した長期一貫指導体制を構築します。

3) 重点施策

- 育成現場に対する強化指針の徹底：達成することが望ましい目標
- トレセン制度を軸とした育成体制の強化
 - ・トレセン制度の検証と質的向上を目指した施策の推進
 - ・JBF エリートプログラムの制定とその検証
 - ・キッズエリートのあり方の検証
 - ・都道府県競技連盟におけるジュニア選手の一貫指導体制の確立と育成担当指導者の専任化
- JBF アカデミー（仮称）の設立推進：達成することが望ましい目標
- JBF プログラムによる育成施策の展開・発信：達成することが望ましい目標

5 国内競技会

1) 現状の課題

- 日本バイアスロン選手権大会のより一層の活性化
- 国内競技会の認知度の向上、高付加価値化

- 各種競技会の大会要項の整合性
 - 各カテゴリーの特性に合わせた、出場しやすい競技会の整備と日程の調整
 - チーム数の減少、特にチーム数・選手数の減少対応（自衛隊チームとのあり方の検討）
 - シニア年代の活性化
- 2) 今後の方向性
- 日本のバイアスロン競技の「普及」と「強化」を担う国内競技会。
その認識に基づき、登録者にとって、より一層魅力ある競技会づくりに努めます。そのために、常にアスリートファーストの観点に立ち、将来的は、あらゆる種別・レベルにとって最適なリーグ及びトーナメント制度の導入をつくります。また、参加者が無理なく楽しめるリーグ及びトーナメント環境となるよう、開催エリアの設定や年間のバイアスロンカレンダーづくりに細心の注意を払うと共に、より充実した高付加価値の競技会にすべく、大会運営を支える多くの関係者と協働していきます。
- 3) 重点施策
- 国内競技会の充実：達成することが望ましい目標
 - ・日本バイアスロン選手権大会のより一層の活性化
 - ・2種・3種・4種年代の選手強化・大会開催環境のより一層の充実と高付加価値化
 - ・各種別の大会要項の整理
 - ・年間バイアスロンカレンダーの整理
 - ・社会人連盟との協働と1種年代の活性化
 - ・シニア年代の競技会の充実
 - 女子バイアスロン：達成することが望ましい目標
 - ・1種・2種・3種・4種年代の競技会の充実とプレー環境の充実
 - ・全日本中学・高校女子バイアスロン選手権大会の開催と大会ブランド・価値の向上
 - ミニバイアスロン：達成することが望ましい目標
 - ・都道府県ミニバイアスロン競技大会の開催、全日本ミニバイアスロン選手権大会の開催・大会ブランド・価値の向上

6 国際競技会

- 1) 現状の課題
- ・IBU ワールドカップ、IBU カップ等の大会の未招致
- 2) 今後の方向性
- バイアスロンは、現在のヨーロッパで最も多くの人々に愛されているスポーツの1つです。
そして、IBU ワールドカップ・IBU カップは、世界で最も大きなスポーツの祭典です。代表チームを結成し、海外の代表チームと競う国際競技会に参加することは、日本バイアスロンの最も大きな喜びの一つです。
- 日本代表が世界の頂点を目指して強豪国と競う国際競技会の日本開催は、バイアスロン選手を夢見る子どもたちの憧れとなり、バイアスロン競技の普及、そして、日本バイアスロンの価値向上につながります。
- JBF は、日本代表の強化に向けた戦略的なマッチメイクを行い、より多くのファンやサポーターの人々に喜んで会場に来て観てもらえるよう、国際競技会招致を推進します。
- 3) 重点施策
- 代表戦の招致とより良い運営と現行大会の収益向上：達成することが望ましい目標
 - ・イベント運営の強化
 - ・競技対応・競技運営の強化
 - ・カスタマーサービスの充実
 - ・TV 視聴の実現と視聴率の確保に向けた施策の検討・実施

- IBU ワールドカップ・IBU カップ大会の開催：達成することが望ましい目標
 - ・ IBU クラブワールドカップ開催と円滑な運営
 - ・ 大会開催を通じたマーケティング事業による収益確保

6 指導者

1) 現状の課題

- ・ 日本代表チームを率いることができる世界レベルの指導者の養成

2) 今後の方向性

日本代表チームが世界のトップクラスで争っていくためには、将来の代表選手が育つ環境としてのグラスルーツが重要です。そして、その子どもたちのバイアスロン競技の成長の鍵を握るのは、クラブで子どもたちに日々接する指導者です。子どもたちの日常のトレーニングが、あらゆる面でレベルアップできるよう、また、アスリートファーストの観点を忘れず、選手が主体的にバイアスロン競技を楽しめる環境づくりが行えるよう、より一層充実した指導者養成を行います。同時に、常に世界基準を意識し、海外との交流機会を増やすことで、代表チームを率いることのできる世界レベルの指導者の養成にも努めます。

3) 重点施策

2011年から作成してきた、「オリンピック特別対策強化戦略プラン」を基に、選手強化事業を進めており目標は以下の通り、強化施策等の詳細は別紙参照。

7 マーケティング

1) 現状の課題

- ・ 各活動における統一ロゴやプロモーショングッズ等の欠如
- ・ 日本代表ブランドの確立と収益の確保

2) 今後の方向性

日本バイアスロンは、バイアスロンを愛する多くの支援者により支えられています。多くの人々の関心を集める日本代表、また、少ないながらもバイアスロンファミリーからなる豊かなバイアスロンシーン（日本選手権大会、ジャパンカップ、ミニバイアスロン競技大会、東日本・西日本選手権大会）こそが、日本バイアスロンにとってのかけがえのない財産です。

JBFは、これまでと同様、より多くの方々から支援をいただき、共に日本バイアスロンを発展させていけるよう、日本バイアスロンの価値向上に努めます。

3) 重点施策

- ブランディングの強化：達成することが望ましい目標
 - ・ 日本代表ブランドの広報促進
 - ・ 代表以外の JBF 事業の価値向上広報
 - ・ JBF の各活動のグラウンドデザインやヴィジュアル・アイデンティティ（VI）の統一（JBF ブランディング）
- マーケティングの強化：達成することが望ましい目標
 - ユースディベロップメントプログラムの積極的な展開（JBF 事業に関する商品開発）
 - より充実したスポンサー誘致と協働プログラムの策定
 - IBU/ABF との IBU ワールドカップ予選等のマーケティング権利の交渉

8 都道府県連盟・連合との連携

1) 現状の課題

- ・ 都道府県加盟団体の財政の強化、組織・人材の強化
- ・ 地区・支部/市区郡町村協会および各連盟のあり方の検討と連携強化
- ・ 各支援制度のあり方の検討

- ・ IT やグループウェアを利用した事務作業の効率化（申請・報告等の事務作業の効率化を含む）
- 2) 今後の方向性

都道府県加盟団体の活動を多面的に支援すると共に、都道府県加盟団体のあるべき姿に向けた組織基盤の強化、人材の養成も行います。さらには、これまで未介入であった地域/都道府県レベルの各種連盟との連携も視野に入れ、より一層の連携充実に努めます。
- 3) 重点施策
 - 都道府県加盟団体の基盤強化：達成することが望ましい目標
 - ・ 都道府県加盟団体への支援金及び各種補助金による支援（2018年度まで現制度）
 - ・ 2019年度以降の都道府県加盟団体への支援金及び各種補助金のあり方の検討と支援
 - ・ JBF バイアスロン施設整備事業等を柱とした都道府県加盟団体への施設整備支援
 - ・ 都道府県チャートの作成とその活用
 - ・ 都道府県加盟団体 事務局基盤強化研修の実施
 - ・ 地区・支部/市区郡町村協会及び各種連盟の組織体系の整理と連携強化
 - ・ 都道府県加盟団体など、各種加盟団体等との人材交流の推進

9 基盤

- 1) 現状の課題
 - ・ 日本バイアスロン界のより一層の国際化
 - ・ より積極的な社会との関わり創出とアプローチ
 - ・ 社会貢献活動の充実
 - ・ 組織基盤の強化（内部統制システム、財政、財務・会計ほか）
- 2) 今後の方向性

日本バイアスロンの価値の源泉は、普及と強化です。そして、その普及と強化の取り組みを支えるのが、JBFをはじめ、都道府県加盟団体など各種加盟団体の組織基盤です。

JBFは、多くのバイアスロンファミリーに支えられていることを常に意識し、都道府県加盟団体など、各種加盟団体と共に、その基盤強化に努め、バイアスロン競技の統括団体としての責任を果たすべく、透明化かつ誠実な姿勢で公正を貫きます。
- 3) 重点施策
 - 国際力の強化：達成することが望ましい目標
 - ・ 戦略の立案・実行
 - ・ 人材の派遣
 - ・ アジア地域への貢献
 - ・ IBU 理事の輩出
 - ・ 国際大会・イベントの招致
 - 社会貢献の充実：達成することが望ましい目標
 - ・ JBF ところのプロジェクト
 - ・ リスペクト・フェアプレープロジェクト
 - ・ JBF グリーンプロジェクト・芝生緑化推進
 - ・ 東日本大震災復興支援活動
 - ・ その他、JBF のツール作成や普及を目的とした社会貢献活動
 - 社会への積極的な関わり創出とアプローチ：達成することが望ましい目標
 - ・ 国・地方自治体への働きかけの強化
 - ・ スポーツ関係団体への働きかけと協働
 - 企画調整機能の強化：達成することが望ましい目標
 - ・ 企画立案の強化
 - ・ 戦略推進の強化
 - JBF 施策の事業評価：達成することが望ましい目標
 - ・ 事業評価のあり方の検討と実施
 - ・ 業務管理の強化

- コミュニケーションの強化：達成することが望ましい目標
 - ・ 広報戦略の立案
 - ・ 自社メディアの活用（印刷物）
 - ・ イベント・キャンペーンの強化
- 組織改革と総務・人事の強化：達成することが望ましい目標
 - ・ 常設委員会・専門委員会・大会実施委員会・特別委員会の再編
 - ・ 事務局体制の整備（業務執行理事と事務局の裁量権限範囲の再構築等）
 - ・ 内部統制システムの整備
- スポーツ・インテグリティの確保
 - ・ ガバナンスの強化
 - ・ アンチ・ドーピングに関する情報の発信と共有
 - ・ 暴力根絶の取組、ハラスメント対応
 - ・ 違法賭博の排除
- コンプライアンス体制
- リスクマネジメント体制
- 危機管理体制
 - ・ IBU 規程改正に伴う JBF 規則・規定の改正
 - ・ 都道府県加盟団体・Jリーグ？、IBU・ABF・海外 NF への積極的な人材派遣・人事交流
 - ・ 人事制度の刷新、人材開発の推進
 - ・ 秘書業務（機能）の強化
 - ・ 関連会社等の新設の検討
- 財務・会計機能の強化：達成することが望ましい目標
 - ・ 財政計画の作成
 - ・ 予実算管理・コスト分析機能の強化
 - ・ 新業務・会計システムの導入
 - ・ 会計処理の効率化・正確性の向上・迅速化
- 法務機能の充実
 - ・ 規約改正
 - ・ ガバナンス・コンプライアンスの徹底
 - ・ 法務体制整備
 - ・ 契約業務
- 司法対応
 - ・ 代議員会対応
 - ・ 規律委員会・裁定委員会・不服申立委員会対応
- 医学・医事関連活動の推進
 - ・ メディカルネットワークの整備と活用
 - ・ メディカル情報の発信・伝達
- 登録管理の強化
 - ・ 登録管理機能の改善
- IT 活用による業務改善
 - ・ 情報セキュリティーの向上
 - ・ 業務システムの改善
- JBF 創立 10 周年（平成 33 年、2021 年）記念事業の実施
 - ・ イベント・記念試合・文化事業の実施
 - ・ 記念式典（JBF アワード）の実施
 - ・ 出版物・アーカイブの制作
 - ・ JBF のメッセージ発信